



も く じ

組織図・ボランティア募集	3
特集 高齢者のくらし支える配食サービス	4
わいわいランチの1日	4
わいわいランチを支えるボランティアの“心意気”	6
わいわいランチの現在とこれからの課題	11
各グループ活動紹介「活動近況と参加者雑感」	12
あの人に会いたい！ 橋本静子さん	16
おしらせ	16



はじめに

神戸YWCA地域活動委員会は、1995年の阪神・淡路大震災を契機に神戸YWCAの中に生まれた9つのボランティアグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～ひとりひとりが存在そのものを大切にされる地域社会作り～を実現するために活動している委員会です。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力し合あうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外への各活動の情報の発信などもおこなっています。



組 織 図 ・ 活 動 紹 介
一緒に活動して下さる方を大募集しています!!!

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日
高齢者のサポート		
わいわいランチ	一人暮らしの高齢者世帯に手作りのお弁当をお届けしています。盛りつけや配達など得意なところで力を発揮してください。	毎週月 ～金曜日 9:30～
わいわい亭	高齢者の方対象の会食サービスです。食事の準備や話し相手など、皆さんと楽しいひとときを過ごしてください。	毎週水曜日 10:30～ 14:00
わいわいデイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜日 11:00～ 15:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。	
子どもと家族のサポート		
そらとぶうさぎ	しょうがいをもつ子どもと家族のためのフリースペース。みんなで遊んだり、お出かけしたりしています。ぜひ一度きてみませんか？	毎月1回 土曜日
子育て支援プロジェクト	子育て中のお母さん、お父さんそしてその子どもを社会のみんなで支援していきます。	
ちゃいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。	毎週木曜日 11:00～ 15:00
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話をうかがっています。参加してみませんか？	第2・第4 土曜日 18:00～

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。1855 年英国で始まり、今では日本を含み 120 あまりの国と地域で、約 2500 万人の女性たちが活動しています。

特集・高齢者のくらし支える配食サービス わいわいランチの一日

「わいわいランチ」は、神戸YWCAが行っている高齢者向けの配食サービスです。高齢者自身やご家族が昼食を調達することが出来なくなった時にご利用いただいています。

活動拠点は神戸市中央区坂口通にあるYWCA分室。昼食として召し上がっていただくために、11時から12時30分の間に配達可能な地域（灘区の都賀川から西、中央区の生田川の東まで）の方にお届けしています。2007年8月現在で20～25食を平日（月～金、土・日・祝日は休み）に配っています。この「わいわいランチ」の1日の活動の様子をご紹介します。

9:00～

調理担当が仕事を始める

ランチの1日は朝9:00から始まります。まずYWCAのスタッフが、その日の配食数を記入し、器の洗浄準備を始めます。その横で、担当のボランティアが調理を始めます（写真右）。



9:30～

盛付の担当が仕事を始める

器を熱湯で消毒・洗浄します（写真左上）。その器に料理を盛付けていきます（写真左下）。

メニューを書く



曜日毎に、いろいろなメッセージをメニューに書きそえます（写真上）。花言葉・花の写真・

「今日は何の日」・格言・健康情報などなど。
メッセージはWebサイトで探すことも。

利用者さんのお誕生日にはカードとお赤飯を詰めてお届けします(写真右)。カードとはあるボランティアさんの心がいっぱい詰まった手作りなのです。

11:00～

配達へ出発

弁当を袋に入れ(写真右)、車に積み込みます。お味噌汁も袋に入れてお届けします。

「いつもおいしくいただいています」「ありがとうございます。たすかっています」、お弁当を渡すときに利用者さんと接するのが楽しく、励みになります(写真下)。



配達中の車内では、出納簿と配達日誌への記入や道順・食数の確認などを行います。緊急対応は、電話やメモで連絡を取ります。



また配達中は「おしゃべり」の時間にもなります。時事問題・趣味の話・健康・ダイエットなど、話題は尽きません。また利用者の様子について話しあって確認することも大切です。

12:30～12:50

配達から戻ってくる

配達から戻ってくると、回収した容器をケースに入れます。また引き継ぎ事項や出納簿を記入したり、代金を確認します。その後に昼食を取りながら反省、交流です。片付けやそうじもします。次の日の食材の受け取りがあったり、買い出しに出かけることもあります。

13:30～14:30

さようなら、

次回もよろしく！



「わいわいランチ」は、活動が週に5日あるうえに調理・盛り付け・配達など役割分担もあって、関わるボランティアの数は神戸YWCA地域活動グループの中でも随一の多さ。ボランティアごとに、関わるようになったきっかけや思いはいろいろです。そこで、わいわいランチのボランティアの中から数名の方々に集ってもらい、活動に関わるきっかけや活動を通じて考えたこと、利用者とのかかわりなどについて、ざくばらんに語っていただきました。

わいわいランチを支える ボランティアの“心意気”

高齢者配食サービス「わいわいランチ」ボランティア座談会

ランチは、震災直後の炊き出しから始まっています。その後、届ける対象が「被災者」から「高齢者」に変化していきました

みなさんがボランティア活動をはじめたきっかけをお聞かせ下さい。

大工原：わいわいランチ（以下、ランチ）は、震災直後の炊き出し¹から始まっています。私は震災前からYWCAで活動していて、ランチも最初からずっと関わっています。

最初は被災者の方々への炊き出しの延長で、公園のテントから仮設住宅に移った方々のところへお弁当を届けていたんです。その後、届ける対象が次第に「被災者」から「高齢者」に変化していきました。

神戸市からの助成金²が「毎日配食型」の活動にしか出ないということだったので、現在の月曜日から金曜日までの活動になりました。

増田：私は阪神・淡路大震災で被災し、YWCA旧会館³のすぐそばに引越してきて、1996年の秋頃にボランティア募集の掲示板を見て、参加するようになりました。現在の家に移り、あとかたづけも済んでほっとしたことが大きいですね。生活の変わり目にあって、主婦にとって身近な食事に関するボランティアで、何か役に立てるかな、という思いもありました。

私が始めた頃は週2回、火・木の午後に夕食をお届けしていました。救援物資を利用したり、北区に住むボランティアの方が持ってきてくれた野菜を利用したりしながら届けていました。

復興住宅に移った方々のところへ配達に行き

1 1995年1月17日の阪神・淡路大震災の発災直後、神戸YWCAでは「救援センター」を立ち上げさまざまな救援活動を行ったが、そのうちの1つが当時の神戸YWCA会館のガレージを利用した炊き出しであった。これが「わいわいランチ」の原点となり、現在に至っている。

2 「神戸市中央区ひとりぐらし老人ふれあい給食サービス事業助成」のこと。

3 神戸YWCAの本館は、2000年までは阪急王子公園駅の近くの上筒井にあった。旧会館とはこの建物のこと。その後、震災で水路などの破損がひどいことから、現在の二宮町に本館が移転した。

だした頃から、高齢者対象ということになりましたね。「わいわいランチ」という名称になったのもその頃です。HAT 神戸⁴に配達していた頃は建物を駆け上がったりしたりして体力的に大変でした。弁当の値段を上げたときにやめた方もいるし、亡くなられて配達が終了したケースもあります。

大倉：私の場合は震災後、旧会館の前を歩いて、どんな活動をされている所なのかと思いついて入っていったのが、YWCA に来るきっかけでした。全国の YWCA に向けて、兵庫の地元特産であるいかなごの釘煮を作って全国に発送するのを手伝っていて、手が足りないからということでカフェの調理もやるようになり、その後ランチの調理にも関わることになりました。ボランティアの場が 2001 年に旧会館から現在の分室⁵にかわっていくなか、辞めた方もいらっしゃいましたね。

小野：僕は、分室の貼り紙を見て来ました。週 1 回ぐらいだったらできるかなと思って。予定の無い火曜日にボランティアをすることにしました。職場を 2000 年に辞めてから始めました。ボランティアをやりたい、役に立つなら使ってもらおうという気持ちから始めましたね。

井上(み)：あるボランティアの方も掲示板を見て来られたそうです。お母さんを亡くした直後で喪失感があり、「何か役に立ちたい、集中できるものがほしい」という思いもあってはじめた、とお聞きました。

私は病気休職中に、知人の Y 会員からランチの人手不足を知らされ、今なら手伝えると思いました。2003 年 3 月から始めました。直後に知人が骨折され、月・水と来るようになりました。ランチで元気をいただき復職できました。恩義を感じています。

青柳：私は、病院を辞めてパートに就いて、それを辞めたときに友人から誘われたのがきっかけです。最初は火曜日のみで、その後ボランティアの人数が減ったときに金曜日にも来るようになりました。

井上(瑛)：私は、旧会館でホームヘルパー養成講座を受けていて、職員に声をかけられたのがきっかけです。運転ができるということで協力していました。いつの間にか、知らず知らずのうちにボランティアを始めた感じです。一時期活動から遠ざかっていたのですが、再び活動に参加しました。

三村：僕は、長年勤めていた会社にボランティア休暇をとりたいと申し出ました。「遊んで給料がもらえる、これはよい」という軽い動機で始めたのです。会社が大阪から神戸に移ったのをきっかけに申し出て、区役所のボランティアセンターに行き、ランチのチラシを見つけました。病院への送り迎えのようなボランティアをしようかと思っていたところだったので、運転して弁当を届けるドライバーならできるかなと思い、2005 年の 5 月からはじめました。

4 神戸市の東部新都心として開発された地区の名称。「HAT」とは「Happy Active Town」の略。震災後、多くの被災高齢者がこの HAT の復興公営住宅に入居したため、高齢化率が極めて高い。

5 現在の神戸 YWCA でボランティア活動の拠点となっているのが分室。神戸市中央区坂口通にある。わいわいランチもここで弁当をつくり、配達に行っている。

ランチの配達中、配達する側とされる側が同じくらいの年齢になり、心中が複雑だとおっしゃっていた方もいましたね

続けていて思うことなどありますか？

小野：僕の場合は、ランチの場の居心地がいいこともあって来ているかな。でも、同じボランティアさんの中で、ランチの配達中、配達する側とされる側が同じくらいの年齢になって心中が複雑だとおっしゃってた方もいましたね。

青柳：僕と小野さんは共同作業所のボランティアにも行っています。昨年あたりから配食数が増えてきていますが、僕の場合はうれしい悲鳴ですね。配食先が増えるとそのぶん配達時間がかかるので、終わるのが午後1時から2時頃になります。その後に共同作業所に行ってもボランティアをする時間がなくて、おやつを食べる位になってしまいます.....。

大工原：私の場合は食事にも関心があり、お仲間があることで、続けていますね。

三村：僕は、ボランティア休暇が終わっても基本的には続けようと思っています。4年間のうち2年が経ちました。あと2年続け、その後はペースを落として続けていくつもりです。数は把握していないけれど、ボランティア休暇をとっている人は結構多いのではないかな。会社は早期退職でコスト削減にもつながる、というメリットがありますね。僕は、ここのボランティア仲間の交流が楽しいです。ボランティアどうしのコミュニケーション、かけあいが.....。

井上(み)：この場合は、違和感を感じないですね。緊張せず、ボランティアどうして互いに「そのままでもいい」というあり方がうれしかった。しかし、もう少しメンバーがほしいですね。

あるボランティアが入院したり、事情で来られなくなるとたちまち困ってしまうのが現状ですから。

増田：この間も、同じ曜日担当のボランティアさんの中で、緊急入院された方とご家族の事情で辞めた方が重なりました。すると、たちまち人手不足になってしまう。難しいですね。

井上(瑛)：今までも他でボランティアをしてきたけれど、どこか強制力があつた。ランチは、人数は少ないのに自分の都合で休んだりしても受けとめてくれるところがいいですね。

利用者が病気になり LSA さんに相談し、ヘルパー派遣につながりました。この活動は、ひとり住まいの見守りになっています

利用者さんの様子はどうでしょうか？

井上(み)：私は井上(瑛)さんと反対で、このボランティア活動を経験してから、ヘルパー講座を受けたり定時制の大学院で学んだりしました。大学院では、精神的にしんどい子どもや大人への援助について勉強しました。その講義や文書で知ることを、ここの活動で見っていました。

うつ状態に陥り、ドアを空けてくれなくなった利用者さんがいました。LSA(生活援助員)⁶さんに相談して、介護サービスを利用しヘルパーさんが入るようになると、見ちがえるほど明るく元気になりました。今では「お元気ですか」と言うと「元気よ、はーい」と返事を返してくれたり、手を振ってくれたりするようになりました

6 公的賃貸住宅などで市町村の委託により、居住している高齢者に対して必要に応じて日常生活指導・安否確認・緊急時における連絡等のサービスを行う者。神戸や阪神間では復興公営住宅のシルバーハウジング棟に主に常駐している。復興公営住宅であってもシルバー棟でなければ生活援助員はいない。

したね。

逆に、いつも受け取り準備をして待っていてくれる人の話なのですけれど、一度、届けたときに出てこれないことがありました。その後遅れて配達すると「悩み事があって眠れず、新聞読みながらうつらうつらしていた」ということをおっしゃっていました。翌日からはいつもと同じ様子でしたけれど、昼食を届けているだけです、生活を垣間見させられることがあります。

また別の方は、最初は話しかけても固い表情でした。話しかけるといっても「今日はちらし寿司ですよ」といった、たわいのないことでしたけれど。回を重ねると、だんだんと笑顔がみえてきて、この間ひと言「暑いね」と、つぶやくような話し方で返してくれたのです。そうして次第に、表情がやわらかくなっていきました。青柳：配達する人と顔なじみになったからかな。顔なじみになって慣れてきたというか。

井上（み）：だんだん話ができるようになったそのお宅の玄関には柵があり、その内側に車や自転車が停めてあって「お弁当を届けることができるかな」と思わせられました。「もしかすると家族にお弁当が届くことが伝わっていないのかな」「その他のやりとりもうまくいってないのかな」と考えたりしました。

井上（瑛）：私の知っている人は、最初は時間に遅れると厳しかったのですが、だんだんやわらかくなりましたね。最近は、少し時間が遅くなくても笑顔で迎えてくれます。昼食を届けるときに訪問して、状況がおかしいと思われることを発信し、その後、サポートにつなげていっています。

先ほど、うつ状態になってLSAさんに相談し

た方の話がありましたが、ヘルパー派遣につながり、生活が支えられるようになってから、本当にお元気になりました。この活動は、ひとり住まいの見守りになっていると思います。

青柳：お弁当を受け取られる側も、人が訪ねて来るというのが張り合いになるのではないかな。

増田：逆に、利用者さんの中で体調が心配な方もいますね。気がかりです。



写真上、「わいわいランチ」のお弁当の盛付風景。現在は1日20～25食のお弁当を作ります。写真下、ランチの配達に使っている神戸YWCAの自動車。配達は1時間半から2時間ほどかかります。

ぶらぶらと一人で歩いているときに、困っている人を見て手伝えるようになりました。昔はかっこ悪いかなど思ったけれど

みなさんのボランティア観を教えてください。

小野：僕は、まだまだ役に立ちたい、この程度でいいのかな、と思ったりします。現在67歳。

ぶらぶらと一人で歩いているときに、困っている人を見て手伝えるようになりました。昔はかっこ悪いかと思ったけれど、積極的になりました。ガイドヘルパーの資格も取ったりしました。

増田：趣味やボランティア活動などで昼間外出し、昼食も外でとることについて、ご家族はどうおっしゃってますか？

男性陣：(異口同音) ボランティアをすることに家族は賛成。家にいるよりも喜んでいるのではないかな。

青柳：ボランティアということについて、特にこれといった考えはありませんね。ただ、何かしら活動をする生活を楽しんでいます。金曜食事会で、出し物でゲームづくりをしています。ここ以外にもさまざまな催しにゲームを持っていったりしています。

三村：長期の外国旅行に行ったりしながらも活動できるといったように、自由がきくのがありがたい。その代わり、自分が普段来られるときは来て、他の人と互いに助け合っています。ボランティアに対する意識は相変わらず希薄ですが、

井上(み)：三村さんの場合、生活面での安定があって、そのうえ精神的なゆとりも得られてよいですね。ボランティア精神が希薄とおっしゃっているけれど、活動を続けている時点で、すでに何かしらの思いがあるのではないかな。私は生活は苦しいけれど、あのハードな仕事をまたしたいとは思わないです。今はゆったりとした気持ちで活動でき、貢献感も持っています。

増田：私は、ボランティアは自分のためだと思っています。あるボランティアの方も「自分が元気になる」と言っていました。人が集まることでそれぞれ互いに元気になった。他にも、最

初は表情が固くしゃべりにくかったのですが、次第に慣れて元気になられたボランティアの方もいますね。

井上(瑛)：また別のボランティアさんも、内向的でしゃべりにくかったけれど、次第に元気になっていったと言っていました。この方は、今は体調を崩して自宅で長期療養をしています。それでも自分のできる範囲でボランティア活動をしようということで、自宅で利用者さんのペースデイクードを手作りしてくれています。ご本人は、これからも楽しみながらペースデイクード作りを続けたいと話していました。

大工原：私は自分のできることで、責任をもって、自然体で続けたいと思っています。身体を崩したとき、今までできたことができなくなってつらかったですね。

ボランティア活動は、自発的ですが責任があると思います。その兼ね合いが難しい。現在、活動がぎりぎりのところでまわっています。その日その日みなさんが責任をもってやっている。昼食に間に合うためには、11時には出発したいですね。

大倉：私は調理を担当させてもらっていますが、食べることを支えるのが好きなので、続けています。材料選びに神経をつかいますね。せっかく手作りをしているのですから、予算が限られていても、これからも食材を選ぶことに気を遣っていきたいと思っています。

井上(瑛)：私も自然体でボランティアを続けています。そして、自分が社会に少しでも役に立っていると思えたらいいですね。(8月3日)

参加者：青柳正、井上瑛子、井上みち子、大工原則子、増田征子、三村直樹、小野博詳、大倉和美(計8名)
記録・構成：山本かえ子(神戸YWCA職員)

わいわいランチの現在とこれからの課題

井上みち子（わいわいランチ）

2005～2006年度にかけて介護保険の見直しが行われ、その結果、調理の支援を受けられないお年寄りが増えた。そのため「わいわいランチ」は配食数が6割も増えた。それに伴い、活動の効率について工夫を重ね、経費削減などの努力工夫もし、「地域福祉に貢献するYWCAの会員活動」の域をこえて、配食サービス「事業」らしくみえるようになった。

これからの課題は、ランチに関わる方々の「奉仕活動」を少しでも経費としておとせる箇所を増やすことではないかと考えるのだが、以下に整理してみたい。

(1)「わいわいランチ」が対人援助サービスであるために、自己貢献感（自らが人の役に立っているとの思い）の高い人々がボランティア活動に参加している。また、YWCAの理念や集う人々の醸し出す雰囲気のお陰が居心地もよく、ボランティア年数の長い人が多い。仕事もスムーズにできるよう随分工夫されてきている。

しかし、関わるボランティアが配達・運転・調理担当のどこもが常に人手不足気味である。若い人には夏期休暇や職探しの短期間にしか関わってもらえない。40～50代の「比較的若い人」に心を留めて参加してもらえる活動にするために、また長期にわたって関わってもらえるよう無償ボラの「概念くずし」に、つまりボランティアの僅かなりともの待遇改善に取り組みたいと考える。

(2)活動拠点の分室はYWCA役員のご自宅開放である。いまの車はYWCA所有だが、当初

は会員の乗用車で配っていたそうだ。光熱水費はどうなっているのだろう。ランチに携わるスタッフの賃金はどうするの……。必要経費としてあげると頭が痛くなるかもしれないが、「奉仕」の域を狭める努力が考えられるようになりたいものだ。今より10食ほど増えても配達時間や食材費などは余り変わらないのではないかとの意見もある。ぜひ、必要経費に回せる「収益」をあげる努力をしていきたいものだ。

(3)「わいわいランチ」が毎日型になったのは、当時の行政の助成金が大いに関係する。しかし、最近は行政の配食サービスへの助成金は減り続け、なくなるかもしれない情勢だ。神戸市の高齢者福祉・配食サービスに対する考え方が変わったからだ。また、市の指定業者（各区に3業者）には高齢者向けの配食には1食につき350円（配達料として）の補助金があるが「わいわいランチ」にはいただけない。

ところで、食事は人の健康の基本であり、何よりも命の源である。調理が出来なくなった段階でその人の食を支える配食サービスを受けられてこそ、それまでの生活が維持できるのではないだろうか。そう考えれば、高齢者向けとしていた「わいわいランチ」の利用対象者を外出が難しい必要度のある人たちと拡大してもいいのではないだろうか。そのような利用者を助成の対象としている企業、団体の助成金募集を探すことも考えたい。

活動近況と参加者雑感

わいわいランチ

三村 直樹

神戸 YWCA で“わいわいランチ”のボランティアに参加して2年と少しになります。

当初は配食準備と運転で利用者さんとは直接にお会いする事はありませんでしたが、最近たまに利用者さん宅へ弁当を届ける役をすることもあり、利用者本人や家族の方から「暑いのご苦労さん」とか「いつも美味しく頂いております」とか言われると“なんかいいことしてんねや”という気分になります。利用者さんの年齢は85歳前後(独断と偏見で推定)が多い様ですが、入院休止されることもありランチ復活の連絡があると“とってもハッピー!!”です。一方、ボランティアに参加されている方の年齢はおおむね50歳代前半から78歳と幅広く、平均65歳(?)とこちらも高齢化しているが、利用者さん宅の4階までの階段をいっき上がりする推定72歳のOさんなどは「私がランチ利用者になっても全然おかしくないギャハハハ」と全く屈託が無く元気であります。また、YWCAでは当然の事ながら男性ボランティアは少ないのだが、稀に配達の人3人がYWCAになったりもする。利用者さんもボランティアもいつまでも元気な高齢者であってほしいと思います。

わいわい亭

三浦 啓子

わいわい亭は、高齢者を対象とした昼食会です。週1回、4名のボランティアが運営を手伝っています。「毎週水曜日が楽しみです!」と、ほとんどの方が皆勤で参加してくださり、私たちも大いにやりがいがあります。

わいわい亭に来ることで、生活のリズムを保ち、また新しい知識や刺激を得て帰ることが、高齢の方々にとってどんなに大切かがよく分かりましたが、この活動を維持していく私たちの責任も重いと、痛感しています。

食事会では、限られた短い時間内に、できるだけ皆さんと交流をはかりたいと思っています。しかし、食事の配膳などに多くの労力をとられているのが現状です。私自身も、いつも時間に追われている気がします。全ての面で、もう少し余裕が持てないものかと思っています。

わいわい亭を、内容豊かにし、これからも持続させていくには、人手の確保が最優先課題です。今まで以上に、ボランティア仲間を増やす努力が必要だと思います。

また、本来は、もう少し広いスペースがあれば理想的ですが、現状を考えて、まずは、高齢者に優しく、危険の少ない備品を整えることから始めていきたいと考えています。創意工夫で、これからもわいわい亭を大切に運営していきたいと思っています。皆様のご支援をお願いします。

ちやいやあらんど 佐藤 香織

ちやいやあらんどは子どもを預かる場所ではなくてお母さんと一緒に遊びにきてもらう場所。おばあちゃんやお父さんさんや仲良しの近所のおねえちゃんと来てもらうのも大歓迎。実際にそれはなかなか無いけど.....。

そして、お母さんに一息ついてもらう場所。

子どもが見える場所にいるからこそお母さん同士の会話がはずんで、ボランティアや異年齢の子どもと遊んでいる様子を見たり、新しい発見があったり。

ボランティアも異年齢。いろんな場所で、いろんな形で子どもと接してきた人達がそれぞれに経験した話が飛び交い、たくさんの事を知る。

お母さんは我が子の泣き声を聞き分けられる。他人に任せていていい時、ここは私じゃないと、と手を伸ばす時。その手の中で子どもが笑顔になると、お母さんはそれ以上の何とも言えない最高の顔になる。これが大切。

お母さんと子どもと一緒に笑っている時間がたくさんあるといいのになあ。

そのお手伝いがちやいやあらんどで出来ればと、いつも考えている。

夜回り準備会 村川 奈津美

夜回り準備会では最近、従来の夜回り活動に加え、深夜回りという活動を始めました。これはその名の通り深夜の時間帯に行うものです。駅の多くは終電が終わると何らかの方法でホー

ムに入ることができるようになりますので、そこで寝ている方のところを中心に訪問しています。

時間帯が時間帯だけに他に実施している団体はなく、参加メンバーも学生などに偏ってしまっています。従ってそう頻繁に実施できるわけもなく、月に一回の実施にとどまっています。また、深夜回りで出会った人に対するその後のフォローが、細かいところまではなかなかできていないということもあります。

私自身、以前出会った方がずっと気になり続けているのですが、それ以来予定が合わず深夜回りに参加できずにいるため、気になってはいるものの何もできずにいます。

今、夜回り準備会ではメンバーも増え、活動展開を拡大しつつあります。そんななかでメンバー間の役割分担など、議論すべきことも多くあります。

しかしそれは、メンバーひとりひとりにできることが増えてきたということでもあります。深夜回りも、従来の夜回りの形式では会うことができない人がたくさんいるであろうことはずっとわかってはいたけれど、でもずっとできずにいたことです。それが実施できるようになったのだから、それだけでも大きな進歩と言えるでしょう。

やらなければいけないことと、それに対してできないことはたくさんありますが、できることからひとつずつ、メンバー全員で力を合わせ、やっていけたらいいなと思います。



弓の木歌の集い

橋本 静子

此の集りも 8 年になります。その間亡くなられた方、出席出来なくなられた方もおられますが、毎回の報告は「前回と同じ、異常なし」です。すまされそうな変化の無い集まりです。で、今回も新たに書き加える事は何も無いわけですが、考えてみると初めから今まで同じメンバーです。ずっと続けられたというのは稀有な事ではないでしょうか？

私達の年代では奉仕する当人も生活を共にする家族も何時病気を抱え込む事になるかわかりませんし、そうなると忽ち毎回の奉仕を欠けることなく続けるというのも不可能になりますから、先ず全てが支えられて来た事に対して改めて神様に感謝致します。そしてこの変化の無い集いを皆が楽しみ喜んで下さっているとしたら、そこには戦争体験を、懐かしい歌の数々を、共有しているという背景があると思うのです。地震による被災も、愛する者を失う悲しみも、当事者にしか理解出来ない痛みには違いありませんが、戦争体験はいわば全存在にかかわる問題です。互いの年令も人生もまちまちですが此の共通項は他の何物にも置き替えられない大きな要素だと思います。

そして歌！ かりに今の若い世代が 80 になったとき共に歌える歌が何曲あるでしょう。歌のジャンルも数もふえ続け流行っては消えて行く現代です。そうしてみると同じ話題や歌で楽しみ憩えるというのは実に幸いな事なのではないでしょうか。

わいわいダイルーム

川上 和恵

月 1 回の「わいわいダイルーム」が 2004 年から“生きがい対応型サービス”に変わり、毎週の活動になりました。月 3 回担当させていただいて、早くも 3 年になります。

最初はメンバーの変動もありましたが、現在少ないながらも和気あいあいとにぎやかにやっています。朝からお 1 人お 1 人のお話をお聞きしながらおしゃべりにも花が咲きます。そんな中、ゆったりと音楽にあわせたストレッチから始め、みなさんの体調を見ながら少しアップテンポの曲で全身運動、そして脳のトレーニングゲームや歌で楽しみながら心身ともに活性化していただけるようプログラムを行っています。皆様まだまだお元気ですが、それをできるだけ維持して今の生活を続けていっていただけるよう、デイサービスが少しでもそのお手伝いできればと思っています。

と言いつつも、こんな私が一番皆さまから元気をもらい、いろいろなことを教わりながら楽しい時間を過ごさせていただいているのかも知れません。プログラムの中でのハンドベルもレパートリーはもう 10 曲以上になり、うまく仕上がったときの満足感や達成感を皆で共有しながらお披露目するのを目標に頑張っています。

これからも皆さまとの出会いを大切に、ダイルームがお 1 人お 1 人にとって元気で楽しく過ごしていただく居心地のいい場所になるよう活動していきたいと思っています。

そらとぶうさぎ

森 康羽

そらとぶうさぎの子どもたちとお母さんたちに関わりだして早5年。当時通園施設に通っていた子どもたちはすでに小学生になった。よちよち歩きだった兄弟も大きくなった。ずっと分室内での活動を続けてきたが、だんだん手狭になって、外出することも多くなってきており、現在は活動の半分程度は外に出ている。行き先は動物園や水族園、公園などで、季節に合わせて花見などもしている。

私自身の「活動でこれからやってみたいこと」を考えると、「もっとダイナミックに遊びたい！！」である。山登りしたり、川で遊んだり（シャワークライミングやカヌーとか面白そう！）キャンプなどもいい。とにかく子どもたちがいっぱい体力をつかって、普段できないことをできる場が提供できれば良いなと思っている。うさぎの子どもたちは男の子ばかりなので、トイレや着替えを考えると男性ボランティアの確保がキーになってくる。

これを読んで面白そうだと思われた方、一緒に活動を創っていきませんか？

子育て支援プロジェクト

斎藤 明子

いつのころか、人は子どもを「天からの授かり物」と思っていた。だから自分だけの力でその子の存在をどうしようなんて大それたことを考えなかった。小さくたって一個の命、一人の人生、どうこうできると考えるなんて傲慢だ、と思ったかどうかは知らないが。そして、子どもが世間の枠から少々外れていても母親だけが悩むことはなかった。周りの人たちがそう思わせなかった。「子どもはみんなで育てるもの」と思っていたから。今の世の中でもこんな感じ方で人々は生きていけるのだろうか。何かいつも末梢神経を刺激されていらいらしている暮らし方。体の中にどんと筋の通ったものがあればいいのにと願っても、つい揺れ動いてしまう頼りない感覚。

母親、家族、子育てに関わる人すべてが、自分の中のそうした声に耳を傾けることができたなら、「いつのころか」が「今のこと」に変わるかもしれない。そんな夢が子プロにはある。



あの人に会いたい！

わいわいデイルーム・わいわい亭・弓の木歌の集い 橋本静子さん
ここでは毎号一人、神戸 YWCA 地域活動委員会で活動している会員・会友・ボランティアを紹介していきます。

YWCA の活動に参加されるようになったきっかけは？

YWCA に関わりだしたのは今から 40 年ほど前になります。知り合いの方が YWCA の活動をしていて声をかけていただいたのがきっかけです。

主人は牧師で、その教会が上筒井にあった旧神戸 YWCA 会館のすぐ近くにありました。当時(1960 年代)の YWCA は「C」の部分、クリスチャンのコミュニティの側面が強く、私自身も聖書の学習会や、文化・教育関係の企画を手伝っていました。今の地域活動委員会のみなさんにとっては「Y は福祉活動をするところ」というイメージが強いのですが、当時は今とは雰囲気違ってクリスチャンの文化・教育活動が中心でした。教派を超えた社交があったのが当時の Y に行く楽しみでした。

現在のように、地域活動委員会の活動に参加されるようになったのは？

その後 YWCA も変わってきて私が関わることに疑問を抱きながら、つかず離れずの会員だった時代もありますが、1995 年の阪神・淡路大震災の直後から、炊き出しなどを手伝うようになりました。私が外に向けてボランティア活動をしたのは震災の時がはじめてです。「ボランティア」という言葉がああ頃に急に広まりましたね。もともと教会には社会に奉仕する性格がありますが、私にとって「ボランティア」は新しい言葉でした。

その後、主人が 1996 年に牧師を引退し、研究活動のために一緒にアメリカに行くことになりました。そこで日系の方々にピアノを弾く機会がありました。私は学校でピアノを専攻したのですが、そういうクラシック曲は聴きたくないと言われ、昔の小学校唱歌のアレンジ曲などを弾くと、皆さん大変喜んで歌われました。このアメリカでの経験が、今の Y での活動につながっています。ピアノは天から私に与えられた賜物ですから、それを生かして、人に喜ばれるのがいいなと思ったのがこのときです。

1997 年に帰国して、Y からお誘いを受けて「わいわいデイルーム」に関わるようになりました。歌を歌うためにピアノも弾きますし、手芸やおやつ作りなどもしていました。今も月に 1 度、第 1 火曜日に行っています。そのうちに「わいわい亭」でもピアノを弾いて欲しいということで、ここにも月に 1 度行くようになりました。

1998年に、灘区弓の木南市営住宅の高齢者の集い「むつみの会」からYに「お年寄りが引きこもりがちになるから、歌う会をやりたい」とお話があって行くことになりました。ここには仮設住宅から入居された方が多く、Yの震災救援活動でのつながりから依頼があったようです。

みなさん、どんな歌を好まれますか？

年齢によって違いますが、明治・大正生まれの方は小学校唱歌・文部省唱歌を喜ばれます。また戦後にラジオで流れた歌謡曲、「リンゴの歌」なども人気がありますね。弓の木ではカラオケに行く方が多く、演歌も人気があります。楽譜があれば何でも弾けますが、演歌は「こぶし」があるので楽譜通りに弾くだけでは雰囲気が出ません。歌番組を見て勉強しています。最近は「千の風になって」が流行っていて、弾くことも多いです。

現場ではどんなことを感じられますか？

今は、わいわい亭でもわいわいデイルームでも、弓の木もそうなのですが、参加されている方がだんだんご高齢になって減っています。どこでも、最初のメンバーは残るけれども、後から新しく入ってくる人が続かないことが多い気がします。弓の木だとはじめたころには8人か9人いたのですが、ついこの間に行ったときは3人でした。

どこも大事な役割を果たしていると思うのですが、わいわいデイルームに来ている94歳の女性の方は「家では上げ膳・据え膳で楽だけれども、気づかいが大変。ここだと勝手なおしゃべりができて気が楽。家族にも私にも良いことだろう」とおっしゃっていました。また家の中で歩行器を使っておられるような方も来られています。「人とまじわるのが好き、出かけるのが好き、歌も好きで、あっちこっちに行って骨折もしたが、それでも家の中にいるよりいい」と言う方もいて、すごい勇気だなと思います。

最後に若い会員のみなさんに向けてのメッセージを

わいわい亭やわいわいデイルーム、弓の木でも戦争の話が出ることがあります。両親を戦争で亡くした方もいます。またご主人が赤紙ひとつで召集されて、その後何の補償もなく子育てに苦労した話も聞きました。私自身も戦争中の教育を受けた世代です。体験していないと理解するのは難しいと思うのですが、戦争はどんな理屈をつけてもいけないものです。善良な人が「どうしてそんなことができるのか」という風に人格が変わってしまいます。信仰の自由もありませんでした。私も自分のまわりで見聞きしたことは限られていますから、他の人の戦争体験を聞いて新たに気がつくことが今でもあります。若い人にもそんな話を聞いて欲しいです。

インタビューー：藤室 玲治



ありがとうございました!!

地域活動委員会へのご寄付等ご協力下さった方々

(2007年2月1日から8月31日まで、順不同・敬称略)

法身如道有馬吉徳 藤本 俱子 片山 恵 影山 雅子
黒木 雅子 松本 博子 本城 智子 新居 万太
守山 美佐子 関西学院宗教活動委員会 林 雄介
弓の木市営住宅むつみの会 田中 祥子 東 昌弘
山口 貴美江 東洋英和女学院中高部宗教委員会
清水 純子 三島 孝子 佐野 時江 佐々木 和子
篠崎 八恵子

皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

*万が一お名前がもれています場合にはご一報いただけましたら幸いです。

今後も私どもの活動にご支援・ご協力いただけると嬉しいです。

お 知 ら せ

地域活動委員会より

・ グッズのペンダント、好評発売中！新グッズのバンダナも作成中！
各グループより

- ・ トーンチャイム貸し出します。(応相談) ちゃいやあらんど
- ・ お米を募集しています。 夜回り準備会
- ・ 空きスペースを探しています。 夜回り準備会

